

(19) サービス業 (. 余暇関連その他サービス)

14 / 13 15 / 14 伸び率 10%以上 ? 伸び率 0 ~ 10%
: 天気図マーク; ? 伸び率 0 ~ 10% 伸び率 10%以下

1 . 企業経営動向

余暇関連サービスは、景気動向や天候、そして消費者ニーズに大きく左右される特徴がある。特に、消費者ニーズは、生活様式の変化に伴う価値観の多様化により変化が激しくなっている。レジャー施設設備においても、顧客のニーズへの対応のため設備投資が行われるが、ニーズの変動が激しいため、その見極めが求められている。

遊園地業は、都市型テーマパークが客単価の減少により、伸び悩んでいる。一方、それ以外の企業においては、消費低迷の長期化、入場者数及び売上高の低迷により厳しい状況下にあり、遊園地業の二極化が進んでいる。都市型テーマパークとそれ以外の企業での二極化が進んでいる。新規施設（アトラクション）の導入及びリニューアルは重要な投資として位置づけられているが、価値観の多様化により投資サイクルの短期化が進み、さらにアトラクション以外のサービス（飲食・売店・イベント等）が大きな位置を占めるようになり、企業の投資はハード面を中心にソフト面も充実してきている。

ゴルフ場事業は、消費低迷の長期化により利用者数が減少傾向にあることに加え、民事再生法などの法的整理により再建途上にあるゴルフ場との低価格競争が激化しているため客単価の減少が続いており、極めて厳しい経営状況が続いている。このため、キャディ制からセルフ制（電動カート等）への移行等によるコスト削減を行う企業も現れている。

リゾートクラブについても、米国におけるテロの影響から一時的に国内旅行の需要が伸びたものの、固定客となる会員層が拡大するには至っていないものと見られており、新たな設備投資を喚起するまでの状況にはない。業界としては、消費者選択のワンストップ化を可能とすべく同業他社及び他社経営のレジャー施設等と共同した宣伝・申込みシステムの運用を積極的に行っており、登録施設の拡大・充実を目指している。

2 . 設備投資動向

(1) これまでの設備投資の推移

遊園地の投資額は、13 年度実績は 3.1 億円（6 社合計）、14 年度実績見込みが 7.2 億円（6 社合計）と規模が拡大している。投資目的別では、生産増強と更新維持への投資が中心であるが、生産増強の割合が増加している。。

ゴルフ場は、13 年度実績は 5.8 億円（12 社合計）、14 年度実績見込みでは 4.4 億円（21 社合計）となっており、規模が縮小している。投資目的別では 82 % が更新維持となっている。

リゾートクラブは、14年度実績見込みでは38.8億円となっており、投資目的別では、87%が更新維持となっている。

(2)平成15年度の設備投資計画

遊園地は、大型開発終了後の設備投資の増加が見られず、15年度計画では、2.5億円（4社合計）減少している。目的別内訳としては、91%程度を更新維持が占めている。

ゴルフ場は、4.8億円（20社合計）、リゾートクラブは、58.6億円（7社）で更新維持を中心に小規模な投資見込みとなっている。

3. 長期資金調達・運用動向(長期資金運用動向、長期資金調達動向)

遊園地業は、一定規模の投資を必要とするため借入金調達のほか、社債調達の占める割合が比較的高い。また、内部資金への依存度が高くなっており、資金需要は低い状態となっている。

ゴルフ場及びリゾートクラブについては、会員制による運営を行う企業が多くを占めるため、年会費や預託金などによる内部資金に依存する傾向にあり、中長期的にみても同様と見込まれる。

(グラフ1：設備投資の前年度比の推移)

